

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
KA40A400		経済学 (The Basic Economics)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	月3	日本語		単独						
担当教員	氏名 高見 博之													
	E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674													
授業の概要	経済学の基礎をマスターしていない社会人に対して、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎を講義する。													
具体的な到達目標														
目標1	経済学の分析対象を説明できる						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標2	経済学の基本的な概念を説明できる							○						
目標3	経済学的な考え方を説明できる							○						
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								10						
授業の内容														
1 経済学とは														
2 分業の利益														
3 需要と供給														
4 価格メカニズム														
5 市場の効率性														
6 市場の失敗														
7 市場の限界														
8 労働市場														
9 GDPとは														
10 GDPの決定要因														
11 消費と投資														
12 貨幣と金融														
13 政府の役割														
14 外国貿易と為替レート														
15 経済成長														
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	・毎回、理解度を確認する「小レポート」を実施します。				工夫その他の						
	B:意見の表現・交換			・「小レポート」の用紙に、講義内容を振り返るため毎回の講義のキーワードと講義内容についての質問を記載し提出してもらい、次回以降の講義で回答します。										
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		テキストの予習(20h)											
	事後学修		テキストの練習問題などによる理解の確認(25h)											
	想定時間合計		45											
教科書	『1からの経済学』中谷武・中村保 編著(碩学舎,2010年) ISBN 9784502680809.													
参考書	講義中の議論とレポートを総合的に評価する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート		100%	○									
注意事項	経済学のバックボーンがなく、経済学部専門基礎科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」を履修出来ない社会人学生を中心に講義を行う。												
備考													
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
KA40A205		日本の経済と経営 (Japanese Economy and Management)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修(秋季入学者)	2	1.2	経済学研究科	後期	月5	日本語			オムニバス						
担当教員	氏名														
	E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684														
授業の概要	秋季入学制度により入学した留学生を対象にして、日本経済や日本の経営に関する基礎的な知識や今日的な論点について理解を深めることをめざしている。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	日本経済の発展過程、特徴について理解する。								○						
目標2	「日本の経営」とは何かを理解する。								○						
目標3	今日の日本の経済や経営、地域に関する基本的論点を理解する。								○	○	○				
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									6	2	2				
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	日本の経済発展(1)														
3	日本の経済発展(2)														
4	日本の経済発展(3)														
5	日本の経済発展(4)														
6	日本の経済発展(5)														
7	中間指導														
8	日本の企業経営														
9	日本の流通機構														
10	日本の地域(1)														
11	日本の地域(2)														
12	日本の地域(3)														
13	日本の社会政策(1)														
14	日本の社会政策(2)														
15	キャリア形成支援														
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認	○	グループ討論、意見の全体共有				工 夫 そ の 他 の								
	B:意見の表現・交換	○													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	指定文献学習(25h)													
	事後学修	文献学習、レポート準備(20h)													
	想定時間合計	45													
教科書	とくに指定しない。														
参考書	授業のなかで適宜指示をする。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート		100%										
注意事項	この授業は、秋季入学制度により入学した留学生を対象にしたものであり、秋季入学学生は必修である。春季（4月）に入学した留学生についても、履修することが望ましい。												
備考	変更が生じる場合は随時お知らせします。												
リンク													
	URL												
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○												
教員以外の指導に関わる実務経験者	キャリア形成支援についての課外講義を担当する非常勤講師は、研究科OBであり、職業安定行政に長らくかかわっている。												
実務経験をいかした教育内容	キャリア形成支援についての講義では、厚生労働省外郭団体の県組織のトップとして、近年の留学生グローバル人材への求人状況や、国内・県内における具体的な就職活動のノウハウについて講義していただきます。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
		基礎法学 (The Basic Jurisprudence)													
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態					
選択		2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	火7	日本語			単独					
担当教員	氏名 亀岡 鉦平														
	E-mail kkameoka@oita-u.ac.jp 内線 7703														
授業の概要	本講義は、法学の基礎を有さない学生が、大学院において法律関係科目を履修する際に最低限必要となる知識を修得することを目的としています。また、基礎知識がある程度習得した後は、やはり法学研究の前提となる法と法学の歴史について学習します。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	法学の意義や特徴・性質を説明できる。						☐								
目標2	法・法学の歴史性について説明できる。						☐								
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)							10								
授業の内容															
1	ガイダンス、扱う文献の決定など														
2	法学の種類														
3	法解釈の必要性と方法														
4	法の形式・分類														
5	法の担い手														
6	法と政策、近時の立法の動向														
7	法意識														
8	法律情報の調べ方														
9	近代法の形成①														
10	近代法の形成②														
11	近代法の形成③														
12	日本における西洋法継受①														
13	日本における西洋法継受②														
14	日本における法学の発展①														
15	日本における法学の発展②														
ラーニング エビ デ ン ス グ ラ フ	A:知識の定着・確認	☐	文献の内容について担当者が報告し、その内容について参加者全員で議論を行う。					工夫 その 他の	研究文献の調べ方について適宜説明する。						
	B:意見の表現・交換	☐													
	C:応用志向	☐													
	D:知識の活用・創造	☐													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	報告準備、検討対象となる文献の事前の読解 (30時間)													
	事後学修	授業の復習 (関係する文献の追加調査など、15時間)													
	想定時間合計	45													
教科書	受講者と相談の上、法学入門のテキストの中から適切なものを選んで教科書とする予定です。														
参考書	・ 神野潔他編『法学概説』 (弘文堂、2022年、ISBN 9784335358821) ・ 内田貴『法学の誕生』 (筑摩書房、2018年、ISBN 9784480867261) ・ 飯考行編著『ディスカッション法と社会』 (八千代出版、2024年、ISBN 9784842918617)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	報告及び議論の内容		100%	○	○								
注意事項													
備考		これまで法学の学習経験がない方にも配慮して授業を行います。											
リンク													
		URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
KA40A401		経営学 (The Basic business Management)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期課程	前期	火7	日本語	英語		単独						
担当教員	氏名 松隈 久昭														
	E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680														
授業の概要	大学院で経営学関連科目を履修する際に必要となる経営学の基礎的知識を身につけることをねらいとしています。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 経営学関連の科目において、講義内容を理解し、活用すること。									○						
目標2 講義内容に関するディスカッションに参加すること。										○					
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)									6	4					
授業の内容															
1 企業経営入門															
2 コーポレート・ガバナンス															
3 経営理念と戦略															
4 組織形態															
5 組織間関係															
6モチベーションとリーダーシップ															
7 雇用システム1															
8 雇用システム2															
9 人材育成制度1															
10 人材育成制度2															
11 経営理念と戦略1															
12 経営理念と戦略2															
13 経営者の役割 1															
14 経営者の役割2															
15 まとめ															
ラーニング エビデンス グラフ	A:知識の定着・確認		○			体系的な理解を心がけてください。			工夫 その 他の	体系的な講義を展開します。					
	B:意見の表現・交換		○												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		テキストの精読(30h)。												
	事後学修		テキストの確認(15h)。												
	想定時間合計		45												
教科書		上林「経験から学ぶ経営学入門(第3版)」有斐閣													
参考書		適宜、講義中に示します。													

成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	授業中の議論の内容		50%	○									
	報告・レポートの内容		50%		○								
注意事項		この講義は学部等で経営学関係科目を履修したことがない大学院生を対象にしています。											
備考													
リンク													
		URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
KA40A200		国際コミュニケーションIA特研 (Advanced Research in International Communication IA)													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	木3	英語		単独							
担当教員	氏名 Chris White														
	E-mail chris-white@oita-u.ac.jp 内線 6612														
授業の概要	This 15-week course explores the themes of Happiness No Matter What by Tal Ben- Shahr, focusing on spiritual, physical, intellectual, relational, and emotional wellbeing. Each theme will be discussed over a three-week period, with students engaging in weekly PowerPoint presentations and in-depth discussions. The course emphasizes critical thinking, personal reflection, and effective communication. Assessments include a student presentation, reflective writing, and a self-directed project, allowing students to explore course concepts through creative and individualized approaches. The goal is to enhance students' overall communication skills and wellbeing awareness.														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	Self-directed project								○	○	○				
目標2	Reflective essay								○	○	○				
目標3	Presentation								○	○	○				
目標4	Attendance														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)									3	4	3				
授業の内容															
1	Orientation and placement quiz														
2	Spiritual wellbeing														
3	Spiritual wellbeing														
4	Physical wellbeing														
5	Physical wellbeing - Presentation														
6	Physical wellbeing														
7	Intellectual wellbeing														
8	Intellectual wellbeing														
9	Intellectual wellbeing														
10	Relational wellbeing - Reflective essay														
11	Relational wellbeing														
12	Relational wellbeing														
13	Emotional wellbeing														
14	Emotional wellbeing														
15	Emotional wellbeing - Self-directed project														
ラーニング	A:知識の定着・確認	☐	Extensive reading, peer consultation/evaluation, presentation				工夫その他の	Use of blended learning (Zoom/Moodle), foster ability to express opinions and discuss freely in English (pair/group)work.							
イ	B:意見の表現・交換	☐	rubric, critical analysis and discussion of a topic, forming and												
ニ	C:応用志向		supporting opinions, task-based communicative activities.												
ング	D:知識の活用・創造	☐													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		extensive reading, communication practice												
	事後学修		Extensive reading (150,000 words or approximately 20 minutes daily reading), logging work & quizzes moodle, participating in lectures via zoom and face-to-face (depending on Covid-19) developing a presentation, develop TOEIC skill and practicing academic writing techniques.												
	想定時間合計														
教科書		Materials will be provided by teacher - Based on the book "Happier No Matter What" by Tal Ben-Shahr, PhD. ISBN: 978-1-61519-791-0													
参考書		Extensive readers (OXFORD Bookworms/Penguin Readers) located in the library. http://mreader.org/index.php (extensive reading website) Newspapers and/or articles written in English													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	Presentation	30%	○	○	○							
	Discussion/Lecture homework	30%	○	○	○							
	Extensive Reading	30%	○	○	○							
	Attendance	10%	○									
注意事項	Classes are also held online via Zoom. Absenteeism/Lateness is not acceptable.											
備考	開講曜限については，初回ガイダンス時に調整します。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式							
KC20R204		課題研究 (Workshop for Regional Policy)							対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
コア科目		2	1.2	経済学研究科 博士前期	後期	土1,土2	日本語		オムニバス							
担当教員	氏名 未定															
	E-mail 内線															
授業の概要	この授業は、地方自治体等で地域の実態を分析するとともに政策立案に携わっている幹部職員の方々を講師として招聘し、地域社会、地域経済の課題についてお話いただくとともに、地方自治体等が、その課題解決にむけてどのような取り組みを進めているか、いかなる政策をとろうとしているかといった点について講義をしていただく。学外講師による講義と学内講師による解説にもとづいて、課題解決の方向について自由に議論し、自分の考えをレポートにまとめる。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	今日の地域社会、地域経済は、さまざまな問題を抱えている。地域の抱える課題を的確に把握するとともに、それらの課題に対してどのような方向で解決をはかるのか、いかなる取り組みが必要とされているのかといった点を議論し、理解する。							☐	☐	☐						
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度 (計10)								4	2	4						
授業の内容																
1	学内講師 ガイダンス															
2	学外講師 大分県 商工観光労働部長「大分県経済の現状と課題」															
3	学外講師 大分県 商工観光労働部長「大分県経済の現状と課題」															
4	学外講師 大分労働局長「労働環境を取り巻く課題と対策」															
5	学外講師 大分労働局長「労働環境を取り巻く課題と対策」															
6	学外講師 日本銀行 大分支店長「マクロの経済動向とこれからのチャレンジ」															
7	学外講師 日本銀行 大分支店長「マクロの経済動向とこれからのチャレンジ」															
8	学外講師 九州財務局 大分財務事務所長「日本財政の現状等について」															
9	学外講師 九州財務局 大分財務事務所長「日本財政の現状等について」															
10	学外講師 大分県 生活環境部防災局長「大分県の防災対策について」															
11	学外講師 大分県 生活環境部防災局長「大分県の防災対策について」															
12	まとめ															
13	まとめ															
14	学内講師 レポート・論文の書き方指導															
15	学内講師 レポート・論文の書き方指導 (参考：令和6年度実施内容)															
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認		グループ討論、質疑応答、意見の全体共有					工夫 その 他の								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		授業テーマに関する文献学習 (20h)													
	事後学修		まとめ・レポート作成 (25h)													
	想定時間合計		45													
教科書		必要な資料は各講師が配付する。														
参考書		必要な資料は各講師が配付する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	外部講師の授業ごとの小レポート		40%	○									
	最終レポート		60%	○									
注意事項													
備考		学外講師の都合等により、土曜日などの講義は学外で行うとともに、時間等が変更になることがある。											
リンク													
		URL											
担当教員の 実務経験の有無		○											
教員の 実務経験		地方自治体や国の地方出先機関など公的組織や民間企業等において幹部職を勤めている。											
実務経験を いかした教育内容		地域社会、地域経済の課題とその課題解決に向けた取り組み、政策についての講義と、課題解決に向けたディスカッション。											